

**製品名: KLF7 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab13063**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	41kDa

**抗原情報**

遺伝子名	KLF7
別名	KLF7; UKLF; Krueppel-like factor 7; Ubiquitous krueppel-like factor
遺伝子 ID	8609.0
SwissProt ID	O75840
免疫原	抗血清はヒト KLF7 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 171-220

**背景**

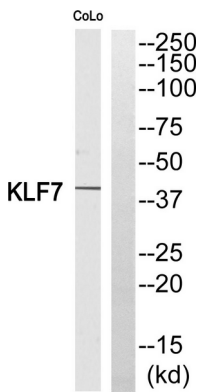
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、Kruppel 様転写調節因子ファミリーのメンバーです。このファミリーのメンバーは細胞の増殖、分化、および生存を制御し、C 末端に 3 つの C2H2 ジンクフィンガーを有し、GC リッチ部位への結合を媒介します。こ

のタンパク質は、膵β細胞におけるインスリンの発現と分泌を阻害し、脂肪細胞におけるアディポサイトカイン分泌を脱制御することで、2型糖尿病の進行に寄与する可能性があります。この遺伝子の偽遺伝子は3番染色体長腕に位置しています。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq提供、2012年8月],domain:酸性N末端部分は、転写因子の塩基性ドメインとの相互作用を促進する可能性があります。function:転写活性化因子。試験管内でβグロビンプロモーターのCACCCモチーフおよびSP1認識配列に結合します。類似性:クルッペルC2H2型ジンクフィンガータンパク質ファミリーに属します。類似性:3つのC2H2型ジンクフィンガーを含みます。組織特異性:成体では脳と脊髄に広く存在し、胎児では腎臓と脳に高く発現します。、

## 研究分野

-

## 画像データ



KLF7抗体のウェスタンブロット解析。右レーンはKLF7ペプチドでブロッキングされている。